

令和2年度 学校経営報告書（自己評価）

学校名	富士市立高等学校	校長名	岩田 享
-----	----------	-----	------

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生活及び学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・学期毎、各クラス延べ欠席数 20 人以内、延べ遅刻数 5 人以内（入院等の長欠者を除く） 	長欠傾向の生徒を除けば、ほとんどのクラスで、欠席数 20 人以下、遅刻数 5 人以下を達成できた。	教務 A	欠席・遅刻・早退の数は減少しているが、長欠傾向の生徒に対して、今後も複数の教員で対応する必要がある。コロナ対策の出席停止扱いの欠席生徒の学力保証も検討課題である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・平均 2 時間以上家庭学習を行う生徒、前年度比 20%増 	毎日の学習時間記録の集計の結果、前年比 20%増を達成できた。	教務 B	学年や学科により家庭学習習慣にかなりの差がある。「週に 5 日以上、家庭学習をしている」、「家庭学習時間が平均 90 分以上」の生徒はともに 55%以上いるので、継続して声かけを行い、各教科でも家庭学習につながるような課題の設定や啓発を行う。
ア	魅力ある授業実践と授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の内容が分かる」生徒 70% 	生徒アンケート 全体：68.8% 1年：65.2% 2年：63.4% 3年：77.3%	教務 B	授業内容の専門性が増してくる 2 年生の結果が低かった。どの学年も引き続き授業改善していく必要がある。臨時休業中の対策も準備が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の 70%以上が「授業に満足している」と答えた教員 80%以上 	生徒による授業アンケートの結果 95%	企画研究 A	アンケートでは、教員の熱意、生徒理解、板書・プリント作成の工夫などの質問項目で高い評価が見られた。今後も引き続き、授業改善に努める必要がある。
イ	学校の安心安全と生徒・職員の健康増進	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車安全指導カード（年間 50 件以内）、自転車事故件数（昨年度より減） 	自転車指導カード 54 件(1/21 現在) 自転車事故 9 件(1/21 現在)	生徒 C	昨年度は、自転車指導カード 34 件、自転車事故 14 件であった。指導カード件数が増加した。交通ルール遵守を呼びかけていく必要がある。

様式第3号

		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校に困ったことや悩み事を相談できる人がいる」生徒 90% 	生徒アンケート満足度 84.3%	教育相談 B	生徒アンケート内に「信頼できる先生がいる」という質問があり、その満足度が低い。信頼関係を築くことから見直す必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学年別に実施する保健講座後の意識向上率 20% 	1年次は、性に関する意識の改善、2年次は、人間関係づくりに関するエンカウンターを実施した。	保健環境 B	1年生は高校生の性行為に対して7.2%、2年生では56.4%意識が向上した。講座の開催と、日常での指導を連動させ、更に向上を目指す。
		<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ・体罰の撲滅 	いじめ・体罰についてはアンケート調査を実施し、対応した。また、集会や学校からの便りで人権尊重の意識を高めるよう指導した。	教頭 B	いじめ・体罰撲滅に向けて絶えず呼びかけを行う。
		<ul style="list-style-type: none"> ・週3日以上午後8時以降に残留する職員の減少 	週3日以上午後8時以降に残留すると答えた職員の割合は昨年度に比べ11月以降は半減した。	管理補佐 B	ワークライフバランスを意識して仕事に取り組む職員は増加しているが、学校の魅力化を図りながらも業務を削減することは大変難しい。教職員間で業務の平準化を図っていく必要がある。
ウ	高い志のもと進路実現のための進路啓発及び実績の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の将来に対する、はっきりとした夢や希望を持っている」生徒 80% 	生徒アンケートより 64.6%	キャリア C	様々な進路行事を通して、明確な進路目標を持たせ、低学年時の段階から、学習や行事に前向きに取り組む雰囲気を作る必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校で勉強した内容をきっかけにもっと知りたいと思う事が増えた」生徒 60% 	生徒アンケートの結果 H30 51.6% R1 48.4% R2 49.1%	企画研究 C	毎年50%前後の生徒にとどまっている。教員一人一人が、生徒の知的好奇心を喚起し、自主的な探究学習につながるような授業を構築する必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・校外模試の全国偏差値50以上の人数及び平均点偏差値の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・進研模試国数英合計偏差値50以上の人数 1年:7月から11月にかけて微増。 2年:7月から11月にかけて微減。 ・平均点偏差値 1年:7月～11月にかけて微増。 2年:7月～11月にかけて横ばい。 	学力向上対策 B	<ul style="list-style-type: none"> ・1月進研模試の結果がまだであるがおおむね全国偏差値50以上の人数及び平均点偏差値の維持ができています。 ・年度当初休校等で十分な模試対策ができなかったが、3回の模試を通じて模試の結果分析・対策の実施・検証のサイクルを行う事ができた。

様式第 3 号

		<ul style="list-style-type: none"> ・進学（四大 100 名以上）及び就職内定率(100%) 	四大合格延べ人数 95 （1月22日現在） 四大進学希望者 109 名 就職希望者内定率 100% （就職準備 1 名）	キャリア B	総合型選抜や学校推薦型選抜における不合格者が多く、1月22日現在、専門学校含め 31 名が進学先未決定者である。公務員希望のため、就職準備が 1 名いるものの、就職希望者は全員内定をいただいた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・簿記検定 1 級合格率 80% 及び全商検定 1 級 3 種目以上合格者 20 名以上 	全商簿記検定は、81 人中 70 人が取得した。1 級 3 種目取得者は 15 名。4 種目取得者 3 名、5 種目取得者 1 名であった。	ビジネス探究 B	全商簿記検定 1 級取得者は、81 名中 39 名で、48.1%の取得率であったが、原価計算部門では、70 名が取得し、86.4%であった。全商検定 1 級 3 種目以上取得者は 19 名であった。
ウ	富士市立高等学校改革実施計画の検証と大学入学者選抜改革への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・校内検証報告書の作成及び今後の方向性の検討 	校内検証報告書を作成し、有識者会議を通じて今後の方向性に向けた検討を行った。	指導主事 A	検証の過程や結果を校内で共有し、これまでの取り組みや方向性を持続、発展させていかななくてはならない。
		<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の作成 	新しい教育課程におけるカリキュラムを作成・提出した。	教務 A	教科「情報」が大学入試共通テストにどう組み込まれるのか等、今後も検討が必要である。
		<ul style="list-style-type: none"> ・英語資格・検定試験の準 2 級以上の受験者 150 人、合格率 40% 	準 2 級以上を 223 人受検した。2 級は 15.1% 準 2 級は 46.7%の合格率であった。	英語科 B	準 2 級の合格率を上げることで、2 級以上の受検者、合格率を上げていくように指導していく。
エ	生徒の自主性・協調性及び目標に向かって挑戦する意欲と態度を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・「課題解決の道筋を予測し、課題を解決するための計画を立てることができる」生徒 75% 	生徒アンケートの結果 H30 77.8% R1 75.7% R2 85.0%	企画研究指導主事 A	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習において、「論理的な道筋の予測」はディベート、「課題解決のための計画」は市役所プランで主に扱っている。授業改善等により、今年度は例年と比べ向上した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事・部活動に満足している」生徒 90% 	アンケート調査での回答 「学校行事に満足している」86.2% 「部活動に満足している」77.9%	教頭生徒 B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染拡大防止のため、学校行事の内容変更や部活動での大会中止等があった。コロナ禍でも満足できる行事内容を検討する必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・海外探究研修の充実（生徒の満足度 90%） 	未実施	総合探究 ビジネス探究 スポーツ探究	コロナ感染症対策のため、国内での代替研修も含めて検討していかなければならない。年間行事において、代替・中止となる場合の対応を作成することで、満足できる研修計画を練る。

様式第3号

オ	家庭・PTA組織・中学校・地域との連携	・学年学科別懇談会の出席率 70%	コロナ感染拡大防止のために、冊子を作成して配布した。	総務 B	三密を避けるために来年度も工夫をして対応したい。
		・「本校が地域に開かれた学校と感じる」保護者 85%	94.9%と目標を大きく上回る結果であった。	教頭 A	「地域との連携」は本校の教育目標の柱の一つである。今後もコロナ禍で実施できることを積極的に進め、広報活動も工夫したい。
		・地域交流の実績 40回以上	地域交流事業「第17回人工芝で遊ぼう」1回開催「多世代交流サッカー」8回開催「地域交流ミーティング」1回開催	地域交流 C	コロナ感染拡大防止のため、「ナイトワーク」中止や交流事業を自粛した。その中でも、感染拡大防止策を講じ何とか交流事業が開催できた。
		・「学校運営協議会の提言が学校運営に反映されている」と回答する委員 80%	「学校運営協議会の提言が学校運営に反映されている」と回答した委員 100%	副校長 A	引き続き、委員の提言を学校運営に活かしていく。
		・体育館・グラウンドの一般開放年間 200日以上	体育館開放日数 162日 グラウンド開放日数 284日	事務 B	コロナ感染防止策として、体育館で89日、グラウンドで60日の一般開放を中止した。
		・庭球場の一般開放年間 90日以上	庭球場開放日数 103日	事務 B	コロナ感染防止策として、29日間の一般開放を中止した。前年に比べて利用率は下がっている。
オ	適正な事務の執行	・1月末現在のスクールバス利用者 60人	大淵・厚原線：27人 富士南・中央線：19人 計46人で達成率76.7%	事務 C	年度当初は56人でスタートしたが、1年生の中途解約が8人あった。全利用者の内3年生の利用者が半数以上を占めているため、次年度新1年生の利用者増加が安定経営の課題である。
		・食堂利用者の満足度 80%	味の満足度 88.1% 量の満足度 85.7% 価格の満足度 92.9%	事務 A	味・量・価格ともに満足度は80%を超えることができた。使い捨て容器の導入や座席数を1/3に削減するなどの感染症対策を施して営業した。
		・電気使用量を前年度比3%削減	4~12月：473,021kwh 前年度比-0.93% (-4,448kwh) ※元年度477,469kwh	事務 B	休業時においては使用量が大幅に減った反面、感染症及び熱中症対策でのエアコン稼働により夏季の使用量が増加した。
		・コピー機の利用枚数を前年度比減	A4換算で 4~12月：1,675,625枚 前年度比-209,250枚 ※元年度1,884,875枚	事務 A	臨時休業により4月の使用量は前年に比べて半減した。他の月も前年に比べて削減できた。

(注) 新型コロナウイルス感染症対策のため、事業が中止または延期された場合は適切に対処する。